

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 27 年後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**  
研究発表報告書

申請者氏名	花澤 麻美	会員番号	0031312
申請者の所属・職名	(公財)実験動物中央研究所 実験動物研究部 免疫研究室・研究員		
出席会議名	5 <sup>th</sup> International Workshop on Humanized Mice (IWHM5)		
発表論文タイトル	The reconstitution of human tumor microenvironment in NOG-human IL-6 transgenic mice		

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出して頂き、誠にありがとうございました。岸本忠三先生をはじめとします選考委員の先生方、そしてご推薦頂きました河上裕先生に厚く御礼申し上げます。

わたしは、2016 年 1 月 28 日(木)~30 日(土)にスイス・チューリッヒで開催されました 5th International Workshop on Humanized Mice (IWHM5) に参加致しました。本学会は、新たなヒト細胞・臓器の *in vivo* 解析ツールである「ヒト化マウス」の開発とその応用を主題とした国際学会です。所属する実験動物中央研究所は、ヒト細胞の生着を可能とする重度免疫不全 NOG マウスを樹立しております。本学会でわたしは、この NOG マウスに human IL-6 を発現させたトランスジェニックマウス (NOG-hIL-6 Tg) の樹立によりヒト単球・マクロファージの分化が促進されたこと、さらに、本マウスを用いることでがん免疫療法の標的として注目される免疫抑制性細胞である Tumor associated macrophages (TAMs)や Myeloid derived suppressor cells (MDSCs)の *in vivo* での誘導が可能であることを、ポスターセッションにて発表致しました。発表期間中は、自身の研究について他の参加者と意見交換を行い、本研究の今後の課題と発展性について多くの研究者の意見を得ることができました。また、がん免疫療法の *in vivo* 評価系を求める研究者達と意見を交えることで、創薬研究・臨床研究ではどのような実験動物モデルが求められているのか、どのようなヒト化マウスを開発すべきなのかを知る貴重な機会となりました。

日本国内では未だヒト化マウス研究者は少数であり、本分野に特化したワークショップは存在しません。IWHM5 はヒト化マウスという免疫学の中でも極めて限られた分野に焦点を充て、より深い議論を可能とする数少ない場です。参加者はヒト化マウスの開発者あるいは利用者、そして免疫学者や血液学者と多様であり、講演・発表の聴講やその後の議論の中で様々な視点からの考え方を学びました。この度の国際学会への参加により、ヒト化マウスに関する研究の世界の進捗状況を把握し、同分野の研究に携わる著名な研究者あるいは同世代の若手研究者らとの議論の中で、新規ヒト化マウス開発に有用な幅広い知見を得ることができました。

Tadamitsu Kishimoto International Travel Award のご支援により参加させて頂きました本学会で得られた貴重な経験を生かし、一層研究に邁進して参りたいと思います。